



馬醫醜酬 後之第二

馬醫醜酬 後之第二

麻布大学所蔵

後之才二

一 之失

二十卷

一 系畧

以上亦一卷

大延之失卷第一

此一卷之失と云は古人之忘ラ不失るの命と不失ぬ
乃ともふ失大延是の息延脚に附ふ於日や平仲
國注に二十卷を唯受一人をれば天下類不
る也是と傳受もも古人の眉毛とむらひに
と云テ是二ツ

一 佐の脈細志事一十二脈者よんとい見門初
道合業もゆさう大浮已空一十二病たに
と親動の見出寸白とんを法馬尿法と辨業と
今血脉息脈に代不て親動は脈の志出

変法する之類、長海見たり、時大結、結る者不動
はらう、又云、け時沈草のよう、皮計ぬる家、こころ
はらう、死入、又虫の時入結た、あう、こころ、こころ、虫、活、成、袋
こころ、早、活、入、結、た、活、静、ぬ、虫、を、出、す、お、そ、く
活、早、急、動、動、を、別

一 是、脈、平、す、乃、時、長、命、經、命、ッ、知、す、病、又、病、る、こ、ろ、こ、ろ
と、別、持、又、急、危、の、こ、ろ、成、大、息、急、ぬ、必、死、入、又、息、脈、を
ら、も、こ、こ、血、熱、を

一 血、脈、が、食、味、が、息、を、こ、も、こ、い、時、血、は、生、後、老、と、不、知、
り、こ、い、時、血、脈、と、ま、う、これ、は、あ、ち、あ、ち、の、下、は、こ、い、ま、重、

血、筋、を、こ、い、の、下、弱、血、は、活、之、血、脈、と、これ、は、急、不、見
て、是、冷、て、こ、あ、り、血、老、入

一 生、血、と、こ、も、則、活、也

一 活、血、と、こ、交、これ、は、血、の、急、息、こ、交、これ、は、血、を、こ、い、り、血、の
こ、も、り、や、て、活

一 老、血、一、交、これ、は、す、こ、ま、り、ん、家、極、ぬ、お、ち、血、一、活、不、出
二、交、目、ら、赤、黒、血、二、交、目、は、赤、帯、出、て、交、目、は、活、出、血
三、活、但、こ、い、て、交、こ、交、て、血、も、も、五、交、交、ぬ、も
五、血、筋、大、堅、固、ぬ、て、又、血、脈、常、如、時、下、血、葉、生、後
老、血、筋、散、也、血、脈、二、二、こ、い、り、た、也、為、時、

あつても控はるる子と云

大延治失卷第二

一 徳重の云二月 八月迄の印葉の芽

村迄苦辛 桃白皮 良香 茯苓 是つと月より
加減志つる物也

一 三月迄村迄 平通散 苦辛 茯苓 桃白皮

良香 茯苓 茯苓 合衆 一日百の内は 是つと月より
すりて二荷 茯苓 是つと月より 是つと月より
冷るるを 寒の 是つと月より 是つと月より
と云あし 寒の 是つと月より 是つと月より

てのて 何也 又 是つと月より 是つと月より
と云つと月より 是つと月より 是つと月より
は 是つと月より 是つと月より 是つと月より

一 三月迄村迄 苦辛 桃白皮 良香 茯苓 茯苓
何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ
何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ
何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ
何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ 何れ何れ

一 五月迄村迄 苦辛 桃白皮 良香 茯苓
茯苓 茯苓 茯苓 茯苓 茯苓 茯苓

一 六月村立下 苦草下 下 梲白皮下 良草下 下 茯苓下
下 合衆下 梲白皮下 煎之 陸地下 下 梲葉根下 加 園
のち下 下 同大 霍乱下 下 冷多下 引入 扁身 水下 下
のち下 下 葉下 梲白皮下

一 七月村立下 苦草下 下 梲白皮下 良草下 下 茯苓下
右合衆下 梲白皮下

一 八月村立下 苦草下 下 梲白皮下 良草下 下 合衆下 平
通散下 加 梲白皮下

一 九月ヨリ二月迄 虫腹下 同 平 葉下 下 良草下 下 編砂下
下 黄藥下 下 肉下 一 一 あり 人 參下 下 茯苓 梲白皮下

合衆下 梲白皮下

一 十月良草下 編砂下 下 黄藥下 下 人參下 下 合衆下 梲
梲白皮下

一 十一月良草下 編砂下 下 黄藥下 下 人參下 下 梲白皮
下 茯苓下 下 合衆下 梲白皮下 煎之 陸地下 下 梲葉根下 加 園

風多下 冷多下 煎之 麻 病下 胡椒下 七粒 加 合衆下 梲白皮下
一月良草下 編砂下 下 黄藥下 下 人參下 下 茯苓下

梲白皮下 合衆下 梲白皮下 煎之 陸地下 下 梲葉根下 加 園
下 茯苓下 下 合衆下 梲白皮下 煎之 陸地下 下 梲葉根下 加 園
下 茯苓下 下 合衆下 梲白皮下 煎之 陸地下 下 梲葉根下 加 園

三月ヨリ九月迄 結下 同 平 葉下

一 三月、牽牛子極少射干下大黃下 栝蒌根多

總胃少 以て瓜汁入 芫花下 右合葉右 瓜下

一 瓜下 後入九筒下 瓜下 熱下 瓜下 瓜下 瓜下

一 四月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根多 總胃多

少 芫花下 合葉下 芫花下 瓜下

一 五月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根下 芫

瓜下 總胃少 瓜汁入 瓜下

一 六月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根下

芫花下 總胃少 右合葉下 瓜下

一 七月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根多 芫花下

瓜下 總胃少 瓜汁入 瓜下 射干下 大黃下 栝蒌根多 芫花下

瓜下 總胃少 瓜汁入 瓜下

九月より二月迄の法る瓜下

一 九月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根多 總胃少

毒木皮下 胡麻粉 瓜汁入 瓜下 瓜汁入 瓜下

後入九筒下

一 十月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根多 總胃少

毒木皮下 胡麻粉 瓜汁入 瓜下

一 十一月、牽牛子下 射干下 大黃下 栝蒌根多 總胃少

毒木皮下 胡麻粉 瓜汁入 瓜下

一 三月の白木下 川芎 厚朴 陳皮 各下 枳殼 檉

之西海子 茯苓 各下 右合薬 湯にて水煎下

一 四月の川芎 陳皮 枳殼 各下 皂莢 檉 茯苓 各下

合薬 湯にて水煎下

一 五六月の白木 枳殼 川芎 各下 皂莢 茯苓 檉 各下

右合薬 湯にて水煎下

一 七八月の川芎 厚朴 陳皮 各下 枳殼 白木 各下 皂

莢 茯苓 各下 右合薬 湯にて水煎下

一 九月の茯苓 五倍子 枳殼 陳皮 各下 干姜 川芎 枳殼

各下 皂莢 湯にて水煎下 右合薬 湯にて水煎下

一 十月の茯苓 陳皮 各下 枳殼 西海子 各下 檉

干姜 湯にて水煎下 右合薬 湯にて水煎下

一 十一月十二月の陳皮 茯苓 各下 枳殼 各下 干姜

川芎 枳殼 西海子 各下 右合薬 湯にて水煎下

一 正月の茯苓 皂莢 檉 各下 枳殼 干姜 白木 各下

枳殼 湯にて水煎下 右合薬 湯にて水煎下

一 二月の茯苓 檉 皂莢 陳皮 枳殼 各下 枳殼 湯にて水煎下

右合薬 湯にて水煎下 右合薬 湯にて水煎下

右合薬 湯にて水煎下 右合薬 湯にて水煎下

二七日の初十日の初に於て血ヲ多ク
血熱大熱ニ入リて其の骨脈の血ヲ下レ替ル血ヲ
冷クシ二七日ヨリ初め入ル

一 四五月の芍薬ニ葛根ニ茯苓ニ人参ニ松緑ニ下合葉
ノ初極之日也

一 六月の癩上實ノ息ありて其の先月脈より少
血の芍薬ニ葛根ニ芍薬ニ松緑ニ合葉ニ猪苓
トシテ溲してゆりて其の初十日の初に於て血
糖ヲ多ク其の初十日の初に於て血
溲シテ初

一 七月八月の茯苓ニ縮砂ニ芍薬ニ合葉ノ初二日物の初

トシテ二箇ニ後入ニ合ニ三箇ノ初十日の初に於て
下合葉ノ初七日血ヲ下レ替ル

一 九月十月の縮砂ニ松脂ニ乳香ニ芍薬ニ葛根ニ下合葉
ノ猪苓ニ合葉ニ二箇ニ後入ニ合ニ三箇ノ初十日の初

初の葉ノ初ニ七日の初血ヲ冷クシ三月日也

一 十一月十二月の縮砂ニ下合葉ニ芍薬ニ草菓ニ下
苗者ニ下合葉ニ下合葉ニ合葉ノ初血ヲ冷クシ初十日

二月日也

一 正月二月の芍薬ニ葛根ニ苗者ニ縮砂ニ下合葉ニ
松緑ニ

勿血冷々二月日也

大延無美卷第八

小癩并四季加減毛去性依テ甲し之支

- 一 二月三月六切の馬久立と急勿て俄に紫白り一癩なるる
 本草に加減 栝藎根 皂莢 紫蘊葉 各五分
 第一葉中より加へ松緑をいりて之を灸之角二錢五分
 之角二角一角中癩も流く癩なるるをて血つたれ
 振る腹とく急病んんて良書あり胡麻すりめ常
 一 角五中病と急病白皮と灸攪立てる白の
 色一癩本病とて赤か指おるるは湯とて之

- 一 三月の芍薬 牛膝 下 辛通散 下 右末白芍薬

一 角血冷々七日このの也

- 一 五月の牛膝 芍薬 下 栝藎根 右今芍薬 溲
 一 角流く癩と大癩はゆふ松油と煎て牛膝とを
 一 角今二七日汁も角之後は常す角

- 一 六月の芍薬 溲

- 一 七月八月の縮砂 茯苓 芍薬 右今芍薬 松葉と煎
 一 角これ流く癩なるるは松脂一葉中分加へ

- 一 九月十月の芍薬 中芍薬 但栝藎根

- 一 十一月十二月の茯苓 芍薬 縮砂 牛膝 加へ

の葉と葉との間に生ずる瘡は其の葉の根に生ずる瘡と異なり
常に肉を三月に血をうむる事ありけり竜草蹄筋蹄
門針血をうむる中六脈血をうむる事ありけり息脈は浮ぬ時
冷又うむる事ありけり肝葉也但云雀毛の事ありけり上の
半六脈の間に生ずる瘡也思麻毛の事ありけり上の
血をうむる事ありけり事へける事ありけり葉も縮みぬる時
つゝ下下肉

大延年集卷第九

為病の葉加減

為の病と云ふ肝の瘡と云ふ風病の根也則冷と云ふ膽

の邪を邪肉と云ふ別を云と云ふ肝膽の腑の邪を云と云
云牙肉と云ふ此二の事也故別冷別寒と云ふ牙肉の病は別冷ノ
後則寒と云ふ付別寒の後牙肉と云ふ付葉加減より

一 則冷と云ふ三月に葉を厚朴する白米下葉皮と云ふ下根殼

下肉桂と云ふ下根殼する古葉葉を葉を搗て湯とて送る

一 又三月に根殼する白米する人參下葉皮と云ふ芍薬

右細葉を葉とするよりある事と云ふ一符一符入目と云ふ

夕の骨肉下肉但る根冷固上肉皮流く事あり

いふ事と云ふ葉とするは一也一又云息脈は浮不

ノ固より或は耳根固熱ノ病身は流く事あり

よりあつた毒脱味し濁し水にて返して飲ふ

一 秋三月則冷の切菜 茯苓を多し下 将粉

白朮を多し下 茯苓を多しととゆして搗き一宿を後合

れぬ筒煎た日た二交三日飲む

一 冬三月則冷の切菜 去皮を多し 川芎を多し下 干姜

良香を多し 各合菜を多しととゆして搗き一宿を後合

則定を多し季に菜

一 春三月川芎 白朮 枳椇 去皮を多し 良香を多し下 合

菜を多し枳椇を多し冷日前

一 夏三月くまや 果類 枳椇を多し 良香を多し下 枳椇子

干姜を多し下 枳椇を多し冷日前

一 秋三月則定切菜 良香を多し 枳椇を多し 香附子を多し下

善茯苓を多し川芎を多し 合菜を多し枳椇を多し冷日前

一 冬三月則定切菜 良香を多し 枳椇を多し 枳椇子を多し下 陳皮

枳椇肉桂を多し下 西海子霜を多し下 厚朴を多し下 右合菜を多し枳

椇を多し冷日前

凡病に季に加減

一 凡病と云ふ身の皮は身が朽てくると又云ふ筋はくると

息は凡くと云ふ凡くと云ふ息は凡くと云ふ凡くと云ふ凡くと云ふ

筋は凡くと云ふ筋は凡くと云ふ筋は凡くと云ふ筋は凡くと云ふ筋は凡くと云ふ

一 秋三月のぼりしる葛葉根ニ下ニこのころニ蜜粉ニ平通散ニ合葉ニめあての

一 冬三月の平通散 枯葉根 桃白皮ニ石見川ニ志ニ木乳ニ下ニこの粉 桑白皮ニ合葉ニ葛ニこの粉 瀉ニ加一筒ニ七筒ニ夕日ニ二筒ニ下ニ

打身四季の葉加減

一 春三月の山女ニ苗香ニ石見川ニ志ニ木乳ニ下ニ射下ニ葛粉ニ平通散ニ右合葉ニをゆしての但入息脈ニのりニ下ニ加又出息ニのりニのりニ志ニ加切葉ニ四季ニ入ニ出ニのりニ

一 夏三月打身中葉ニ五倍子ニ海ニ石見川ニ山女ニ後ニ麻角ニ平通散ニ志ニ右合葉ニ一筒ニ七筒ニ入ニ一筒ニ五筒ニ日ニ二筒ニ下ニ但糠卓ニ味ニ四季ニ入ニ出ニのりニ

一 秋三月の中葉ニ山女ニ芍薬ニ下ニ西海子ニ石見川ニ厚朴ニ右合葉ニ葛根ニのりニ其けして二筒ニ七筒ニ入ニ七筒ニも又二筒ニ七筒ニも二筒ニ下ニ又云久打身ニのりニ平藤ニ可加

一 冬三月打身の中葉ニ一筒ニ下ニ木乳ニ下ニ山女ニ良薬ニ平通散ニのりニ合葉ニをゆしてのりニ但久打

力あつた牛膝ツロ季をて加け内之月九月二十魚干
蛤ツカ下加

大延無失卷第十一

痢病の季く加減

一 春三月痢病にて例中葉より 編後より二三日

当葉下とそのの十六後 平通散十八後 合葉より廿四時

より三見一五中葉よりすくそとなく葉五後よりた

て皆て例又云葉例て一日よりいより但息脈とて

急に浮ふよりいよりすくすく久ひりよりよりい

門とて能くす疾息あつても不見らるるよりい

はるに結るとより大印之を季をてい

一 夏三月痢病の中葉より 編後より石之川十五後 平

通散十八後 合葉より廿四時

と用い中葉より入る

一 秋三月痢病の中葉より 川骨より廿四時 平通散

より平通散十八後 合葉より廿四時

一 冬三月痢病の中葉より そのの終十五後 石之川

十五後 細葉より廿四時

浮結より季く加減

一 正月二月九月十月 芍薬 干魚 木香 芍薬

蒲黄ニ多 桔梗ニ多 右条ニ濃クシテ向ニ後入ツテ及ニ向
目ニ交ルヲ治スルガ如ク季ヲ左ニ取リ右ニ取ルガ如ク
トメ方ニシテ交ツテ用テ處ニ付条ニ六南星ニ多 乳香
ニ多 赤ニ多 色ニ付及ニ月ニ白ニ交ツテ後ニ南
星ニ加リ一ニ云切府ニ肉ヲ切クニ付一ニ付条ニ付
汁ニ治冬ニ月 初二日ニ付汁ニ治

心通無失卷 第十三

乱病ニ季ニ加減

一 乱病ニ季ニ有 才ニ心ノ血乱ニ候 是ニ海ニセテ走ありニ
候ニ才ニ凡病ニ付ニ才ニ痛心ノ血出膽ニ入相ありニ

も是才ニ中凡 平心ニ道相ニ是も是才ニ心ノ血
心ノ乱相ニ是

一 心ノ血乱ニ付ニ汗ニ出相ニ是も是才ニ心ノ血

あり也

一 凡病ニ相ニ付ニ才ニ是

一 中凡ニ心ノ乱相ニ是候ニ才ニ自由ニ付 亂ニ是も是才ニ
狂子ノ才ニ是

一 亂ニ才 負心ノ血亂ニ相ニ是ありニ不定

一 心ノ血亂ニ相ニ心亂ニ是付ニ是ニ治ニ季ニ是才ニ是

一 是ニ月ニ是ニ是 騾隣血ニ是 是ニ是 是才ニ是

右の薬を下平通散を下右集り埋りて一筒二沙入るる
日に二反物又の

一 夏之月之例薬しり人參^二石久川^一下^二けい^一下平通散^二右右集り埋りて一筒^一

一 秋三月の乱^二治^一右集り埋りて一筒^一細鳥の糞^二右集り埋りて一筒^一

一 冬之月心^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

一 凡病の乱^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

一 夏之月凡^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

一 秋三月凡^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

一 冬之月凡^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

一 平通散^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

一 平通散^二右集り埋りて一筒^一人參^二右集り埋りて一筒^一下^二右集り埋りて一筒^一

大延無失卷第十四

徳毒喰以季々加減

一 春三月の栲花よりあるものには中一五倍子

平通散下 右金糸ノ瀉の水とて一筒ニ後金一筒日小三
交下向

一 夏三月の平通散石ん河ニ後者五倍子 大なるの如

く下 右金糸ノ筒ニ後入五筒日小三交下向

一 秋三月の中葉栲花苗吉くあるもの五倍子 石見

川ニ交之生薑ノ摺とて瀉水とて梳らば葉を後
くも也若くは石も一日に二交下向

一 冬三月は中葉栲花ありとくあるもの五倍子 葉白皮五倍子

本香辰散五倍子 平通散五倍子 右糸ノ筒ニ後入五筒日
ら交生薑ノ瀉のあり小摺之つ向

吐血ノ季々加減

一 春三月の本香五倍子 下あるもの五倍子 香白正五倍子 五倍子五倍子

平通散五倍子 右糸ノ筒ニ後入五筒日小三交下向
七筒も九筒も右糸ノ筒ニ後入五筒日小三交下向

一 夏三月の平通散五倍子 右金糸ノ瀉のありとて筒

ニ後入五筒日小三

一 秋三月吐血の中葉 志ん五倍子 栲白皮五倍子 栲花五倍子

小豆花下 平通散下 このこま 國のろに 運ぶ加 符
右一 漢入の符ら 交つこの 符

一 冬之月吐血して 創薬しり 志んこま 苗吉こま 本吉
こま 人冬下 石之川こま 右合薬 柳汁 創板 日能
毛りり 大智りり も 同季 加 城

一 春之月い ちいらこま 多うさうこま 苗吉 下 村吉こま
ちりりこま 右合薬 柳のろ して 漢入 五符 日こま
物々之 旨 下 創薬 治に 扁身 西海子 湯 七 洗て
皂 莢 石 灰 市 ち 付 同 季 ち け け へ

一 夏之月 ちりりの 薬 ちこま 右 合 薬 ちこま ち け け へ
山 菜 豆 平 通 散 ち 下 右 未 下 符 三 砂 入 五 符 物 々 日
に ち 交 ち 交 ち 符 へ

一 秋之月 ちりりの 薬 五味子こま ちこま ちこま 右 合 薬 ちこま 温 石
下 ち け け へ ち 下 平 通 散 ち 符 け 柳 柳 ち け け へ
一 冬之月 ちりりの 薬 苗吉 堅 塩 良 吉 車 前 子 ち け け へ
右 合 薬 右 未 下 符 七 符 三 漢 入 物 々 日 ち 交 七 日 下 符
同 季 ち 漢 入 又 ち 血 ね ち 二 七 日 ち 交 ち け け へ ち け け へ

一 ちのこま

大延無失卷 第十

徳病治 食い ち け け へ

息藤原仲綱

奥列會津位

藤原良親

息直親

兼藤原右衛門尉

仲綱

天文亦

五月吉日

坂内藤原忠房

